



皆さんこんにちは！

地域おこし協力隊の池田です。

今月は、先日開催された出ヶ原和紙に関する座談会について紹介します。

(右は私がパキスタンで活動していた頃の写真です)



出ヶ原和紙作り座談会

「出ヶ原和紙」という言葉は、西会津町の皆さんなら耳にしたことがあるかと思いますが、かつて出ヶ原集落をはいじめ、町内各地でこの和紙は作られていたのですが、出ヶ原集落では昭和31年の水害で和紙生産は途絶え、現在は地域おこし協力隊と集落の皆さんによって復興が図られています。

また復興の一環として、実際に和紙作りを行う講座が、町公民館主催で昨年度から開講しています。

10月8日、出ヶ原集落にて「出ヶ原和紙を実際に漉いでいた人や、子どもの頃に和紙作りの様子を見ていた人からお話を聞く座談会」が、集落の皆さんによって開催されました。当時の様子を知る出ヶ原集落在住の4人を招き、かつての紙漉きのことや、当時の小学校の様子、和紙の原料である楮こもの枝を使った遊び、また和紙の歴史についていろいろな話を聞きました。和紙作りの苦労話では、冬

の作業で手が冷たく、また夜遅くまで作業をしていたことなどの話を聞くことができました。また当時の子ども遊びでは、皮を剥いだ楮の棒を下駄に付け、雪の上でスケートのようにして遊んでいたそうです。参加者からは、和紙の当時の出荷方法などに関して質問が飛んでいました。



座談会の様子

今回、この座談会の構想やゲストへの依頼、会場となった出ヶ原公民館の準備などは出ヶ原集落の皆さんが中心となって行われました。また、当日の会場には、かつて町内で実際に使用されていた和紙作りの道具なども展示されていました。

65年ぶりの紙漉き

同日午後には、出ヶ原和紙作り講座の受講者だけではなく、午前の座談会にゲストで来た皆さんも交えての和紙作りが行われ、当時出ヶ原で実際に紙漉きをしていた伊藤トミヨさんも参加しました。伊藤さんは楮の皮を剥ぐ作業を行ったり、剥いだ皮のごみを取り除く作業の当時との違いを、出ヶ原和紙担当の地域おこし協力隊である滝澤徹也隊員（11月10日で協力隊を卒業）や大山某那隊員、他の受講者の皆さんに教えたりしていました。

さらにこの日は、滝澤隊員や大山隊員、受講者の皆さんからのたつての願いで、伊藤さんが65年ぶりに紙漉きをしてくれることになりました。この時、私は伊藤さんの一番近くで、その紙漉きの様子をビデオ撮影していましたが、65年ぶりとは思えないほど鮮やかな紙漉きの手つきに驚きました。講座の中で私が紙漉きをする時、しわができた



伊藤さんによる65年ぶりの紙漉き

り、手首の角度が定まらず、毎回迷いながらヘンテコな紙漉きになってしまいます。しかし、伊藤さんが私たちに見せてくれた紙漉きでは、65年ぶりにも関わらず一連の動作がよどみなく繰り返し出され、しわの無い、綺麗な和紙が漉き上がっていました。伊藤さんは帰り際に滝澤隊員の手を取りながら、「頑張ってくださいね。ありがたい。出ヶ原和紙の復活は本当に嬉しい。体に気を付けながら頑張ってくださいね」と涙声で語り掛けており、とても感動的な場面に立ち会うことができました。